

韓国の「2050炭素中立実現」の先頭に立つ

全羅南道（チョルラナムド）は広域道としては初めて「2050全羅南道炭素中立ビジョン」を宣布し、92百万トンの温室効果ガス排出量を2050年までに炭素中立(Net-Zero)にすることを目指して注力していきます。「炭素のない健康な未来、クリーンな全羅南道」というビジョンを掲げ、クリーンエネルギー・クリーン産業・クリーン生活・クリーン山林の4大戦略における102の中核事業を重点的に推進し、「2050全羅南道炭素中立」を実現する計画です。



01

2050全羅南道炭素中立の4大戦略における102の中核事業を総力を挙げて推進

第一に、クリーンエネルギーの実現に向け、2030年までに単一としては世界最大規模の8.2GWの新案（シンアン）海上風力発電団地を造成するなど新再生可能エネルギーを拡大し、グリーン水素エネルギーの島などグリーン水素クラスターを造成します。

第二に、クリーン産業を造成すべく、麗水（ヨス）産業団地を低炭素型スマート産業団地に改造し、海南（ヘナム）郡に「RE100（*企業が自らの事業の使用電力を100%再エネで賄うことを目指す国際的なイニシアティブ）専用モデル団地」を造成するほか、石炭火力発電所を段階的に廃止します。

第三に、道民のクリーン生活を支えるために、電気・水素自動車の普及拡大、ICTによる農・畜・水産業のスマート化、炭素ゼロビルなどを拡大していく予定です。

最後に、クリーン山林を実現するために、毎年1千万本以上の植樹や、さまざまな地域の特色に合った2,500ヶ所の都心の森造成を通じて、人と自然が共存できる全羅南道を作っていく計画です。



2050 全羅南道炭素中立ビジョン

02

世界の主要国・都市との炭素中立に向けた協力の枠組みづくりおよび情報共有

炭素中立は、一つの国や都市だけの努力では達成できないだけに、全羅南道は世界の主要国・都市との炭素中立のための協力の枠組みを強化しています。持続可能な都市と地域を目指す世界最大規模の自治体協

議会であるイクレイ(ICLEI、2020年6月)や、イギリスとカナダの主導で石炭発電の削減と再生可能エネルギーの拡大を図る脱石炭連盟(PPCA、2021年6月)、世界最大規模の気候変動とエネルギーに関する世界首長誓約(GCoM、2021年7月)、国連気候変動枠組み条約の炭素中立キャンペーンである「Race To Zero」(2021年8月)、都市環境協約(UEA、2021年10月)に加盟するなど、世界の主要国・都市・機関などと炭素中立目標や優秀政策などを共有しています。

03

炭素中立に対する道民の認識向上に向けた温室効果ガス削減 ・炭素ハンター実践キャンペーンを積極的に展開

炭素中立は道民の参加なくしては実現不可能です。道は、全南気候環境ネットワーク、韓国炭素ハンター連合会などの環境団体や社会団体などとともに、温室効果ガス削減炭素ハンター(Carbon-Hunter)実践キャンペーンを積極的に展開しています。また、プロギング(*スウェーデン語の「plocka upp(拾い上げる)」と英語の「jogging(ジョギング)」を合わせたスウェーデン発祥のスポーツ)、ビーチコーミング(*浜辺を歩いて打ち上げられた漂着物を集めたり、観察すること。拾ったもので芸術品を作ったりする)など、ごみをゼロにするゼロウェイストキャンペーン、そして「家庭や職場などで炭素中立生活実践キャンペーンを1日4つ以上実践するチャレンジ」などを発信・展開するなど、低炭素生活実践キャンペーンを強化しています。これからも、すべての道民が炭素中立の実践を通じて1人当たり1トンの温室効果ガスを減らす「全道民温室効果ガス200万トン削減キャンペーン」も積極的に展開してまいります。



温室効果ガス削減炭素ハンターキャンペーン
(ゼロウェイスト)



炭素ハンター実践キャンペーン



温室効果ガス削減実践教育